

New Horizon 第8回 Lessons

Lesson 8-1: 疑問詞③ (What ○○)

ここでは「何の○○」という意味の What ○○について学んでいこうと思います。

【What ○○ : 基本の形】

What ○○+疑問文?

(何の○○が、～ですか)

- <例> **What animal** do you like? (何の動物があなたは好きなのですか)
What subject can you teach? (あなたは何の科目を教えられるのですか)
What time do you *get up? (あなたは何時に起床しますか)
*get up = 起床する / 起きる

【ポイント!】

1. ○○が可算名詞の場合は、使われるのは、単数形? 複数形?

What ○○の、○○の部分に可算名詞が入る場合、単数形と複数形の両方を入れることができます。違いは「単数形 = 1つの答えを想定している場合」「複数形 = 複数の答えを想定している場合」となります。

<例> 何のスポーツが、あなたは好きですか。

What sport do you like? <答えが1つだと考えている> → I like soccer.

What sports do you like? <答えが複数だと考えている> → I like soccer and baseball.

2. What time is it in ○○? で「○○は、何時ですか」という意味になる

What time is it in ○○? という表現を使うと、相手のいる場所の時間をたずねることができます。また、答える時は、It is ~. となります。時間をたずねる際は、主語に地名ではなく、it が使われるのが大きなポイントとなります。

<例> 日本は何時ですか。

What time is it in Japan? (What time is Japan? = ×)

【疑問詞を使った疑問文の作り方】

ステップ 1: 「何の○○」の部分に「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を **What ○○** にする。

ステップ 3: What ○○を**文の先頭**に持ってくる。

<例：何の動物があなたは好きですか>

ステップ 1: 「何の〇〇」の部分に「適当な単語」を入れて疑問文を作る。

「何の動物」の部分「犬」に変える → 「あなたは、**犬**が好きですか」

Do you like **dogs**?

ステップ 2: 入れた「適当な単語」を What 〇〇 にする。

dogs → **what animal** にする。

Do you like **what animal**?

ステップ 3: What 〇〇 を文の先頭に持ってくる。

What animal do you like?

Lesson 8-2: 接続詞 (but / so / or)

ここでは、接続詞について学んでいきます。接続詞とは and のように、単語と単語や文と文をつなぐ時に使われる単語です。

1. **A, but B = A だが、B**

<例> I am tired, but I don't want to go home. <私は疲れていますが、家に帰りたくありません>

〔補足説明〕

基本的に A, but B と 1 文だが、場合によって A. But B. と 2 文で表されることもある。

2. **A, so B = A なので B**

<例> He is smart, so he can teach well. <彼は賢いので、彼は教えるのが上手です>

〔補足説明〕

基本的に A, so B と 1 文だが、場合によって A. So(,) B. と 2 文で表されることもある。

3. **A or B = A か B**

<例> We can play soccer or baseball. <私たちはサッカーか野球ができます>

〔補足説明〕

soccer or baseball のように「単語と単語」をつなげることもできるし、文と文をつなげることもできる。文と文をつなげる場合は、A, or B と A の後にカンマが使われることが多い。

Lesson 8-3: 様々なフレーズ④

1. Enjoy (yourself). = 楽しんで

<例> Don't be nervous. Enjoy yourself. <緊張しないで。楽しんで>

〔補足説明〕

-self は、単数の「-自身」という意味になる（例：myself（私自身）/ herself（彼女自身）/ himself（彼自身）/ itself（それ自身））。一方で、-selves は複数の「-自身」という意味になる（例：ourselves（私たち自身）/ themselves（彼ら・彼女ら自身））。

2. the front = (教室などの) 前 (の方) / 前部

<例> Please come to the front. <前に来てください>

〔補足説明〕

front は名詞。文脈上、どこの前なのか限定されていることが多い（教室の前、会議室の前、など）基本的に the front と the がつく。to the front / in the front のように前置詞を伴うことが多い。

<例> I want to sit in the front. （私は前に座りたいです）

3. a little (〇〇) = 少し (の〇〇)

<例> I'm a little hungry. <私は少しお腹が空いています>

〔補足説明〕

a little は副詞句。a little の後は形容詞や副詞が入る。一般的に little だけでなく、a little と使われるので注意。

4. some (〇〇) = (肯定文で使われる) いくらか / いくつか (の〇〇)

<例> I want some apples. <私はいくつかリンゴが欲しいです>

〔補足説明〕

some は、基本的に肯定文の時に使われる。「私はいくつかのリンゴは持っていません」といった否定文の表現は、英語ではあまりされず「私はたくさんのリンゴは持っていません」といった表現が使われる（この際使われるのは、many（たくさん））。疑問文でも some が使われることがあるが、一般的には any という単語が使われる。

<例> Do you want any apples? （あなたは、いくつかリンゴが欲しいですか）

5. so ~ = とても ~

<例> I am so nervous. <私はとても緊張しています>

〔補足説明〕

so は、very と同じような使われ方をするが、so のほうは感情的で、カジュアルなニュアンスがある。一方、very は、面接やスピーチなどフォーマルな場で使われる傾向があり、相手にとって新しい情報を伝える時などに使われる。

<例> I am so tired.

(一緒に仕事をしていた仲間などに対して使う。一緒にいたことから「私」が疲れていることが分かると思われる相手に使う)

I am very tired.

(How are you? と聞かれた時など、相手が自分の状態を知らない時などに使われる)

Lesson 8-4: it の特別用法

it は「それ」という意味で使われるだけでなく、はっきりした意味を持たないが、文としての形式を整えるために用いられる場合もあります。例えば (すでに練習にも登場しているものもありますが) 「時間」「天気」などを表す時に使われます。この it は「それ」と訳さないのがポイントとなります。

	例文
時間	What time is it? — It is 7:00. (何時ですか — 7:00 です)
天気	It is sunny today. (今日は晴れです)
寒暖	Is it cold? — Yes, it is. (寒いですか — はい、そうです)
明るさ	It is dark *outside. (外は暗いです)

*outside = 外 (に) / 外側へ (副詞)

Lesson 8-5: 前置詞④ (during / like)

1. **during** = ~の間 (ずっと) / ~の間中

<ある2点の間中、ずっとというイメージ>



<例>

We eat snacks during the break. (私たちは、休み時間の間。お菓子を食べます)

【ポイント！】

a / an / the といった冠詞が使われなかったり、複数形にしなかったりする例外の形

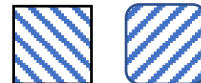
during ~ / after ~ といった表現がされる際、during lunch break (お昼休みの最中) / after second period (2時間目の後) のように、lunch break に a / an / the がつかなくなったり breaks と複数形にならなかったり、また after the second period とならなかったりするケースがよくあります。そういう場合は、数えることを意図していない一般的な「お昼休み中」「2時間目後」を指すことが多いです。

2. like = ~のような(に) / ~に似た

<2つの物が似ているといったイメージ>

<例>

She is like her mother. (彼女は、彼女の母親のようです)



Lesson 8-6: 様々なフレーズ⑤

1. on ○○'s team = ○○のチームにいる / ○○のチームに入っている

<例> You are on our team. <あなたは私たちのチームです (チームにいます) >

〔補足説明〕

on the basketball team のように the や 具体的なスポーツの名前なども足すことができる。また、イギリス英語では、一般的に on ではなく in が使われる。

<例> You are in our team. <あなたは私たちのチームです>

2. (Do) you mean ~? = ~のことですか

<例> A: I like soccer. B: Do you mean football?

<A: 私はサッカーが好きです。 B: フットボールのことですか>

〔補足説明〕

mean は「意味する」という一般動詞。また、何か言い間違えた際に、正しいことを言う前に I mean ~. というフレーズが使われる。

<例> The test is on Wednesday. Oh, I mean Thursday.

<テストは水曜日です。いや、違くて木曜日です>

そのため、(Do) you mean ~? は「相手が言い間違えたのではないか? ひょっとして~という意味ではないか?」というニュアンスで使われることが多い。

3. 文, right? = 文でしょう? / 文じゃないの? / 文ですよ?

<例> You are from New Zealand, right? <あなたはニュージーランド出身なのでしょう?>

【補足説明】

right は「右」という意味もあるが「正しい」という意味もある。そのため“文, right?”の直訳は「文、正しいでしょ?」となり「文でしょう?」という意味になる。また That's right. (その通り) という表現もよく使われる。

4. I see. = なるほど / そうなのですね

<例> A: He is a good soccer player. B: I see.

<A: 彼は良いサッカー選手です。 B: なるほど>

【補足説明】

see には「見る」という意味だけでなく「納得する」「理解する」という意味もある。そのため、I see.の直訳は「私は納得します」となり「なるほど」という意味になる。

5. before / after ○○ period = ○○時限の前 / 後 *○○には主に first / second など序数が入る。

<例> Do you have time after second period? <あなたは2時間目の後に時間はありますか>

【補足説明】

特定の○○時限を指している場合は、the ○○時限 (before / after the first period など) となるのだが、一般的に○○限目という場合は、無冠詞 (before / after first period など) になることが多い。